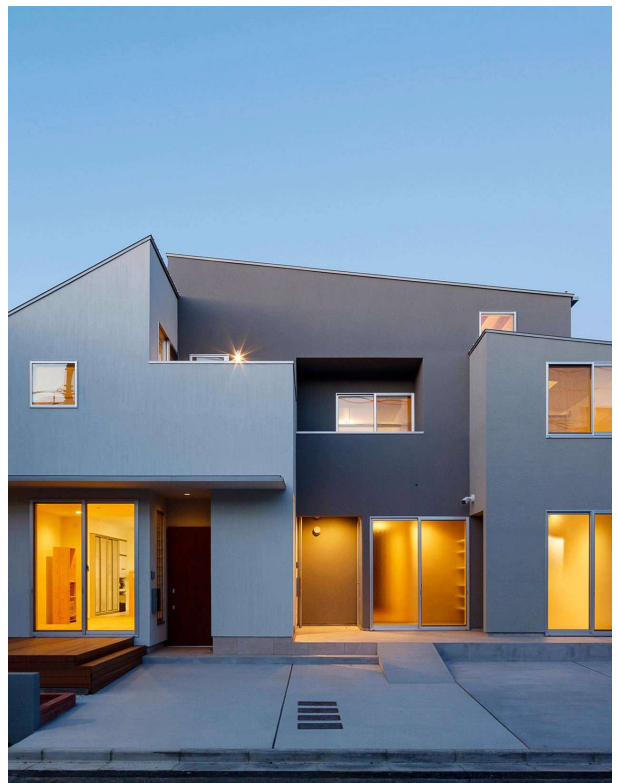


文化村ハウス

街をつくるように建築をつくる、派生的手法による集合住宅

主要用途： 賃貸併用住宅
構造： 木造
階数： 地上2階
建築面積： 121.44㎡
延床面積： 237.50㎡

 GOOD DESIGN AWARDS 2020



多様で複合的な計画

大正時代に土地開発され、新興住宅の一つのモデルともなった落合文化村。そこには学者、作家、画家などの文化人が多く居を構え、多様な文化や交流が生れる土地柄であった。その第一文化村に属する敷地で代々生活を営み続けてきたクライアント一族の記憶と歴史が相まって、このプロジェクトにはかつての土地風土を継承することが求められた。

4世帯がオーナー家族居住用で、3世帯が賃貸住戸用となる、7家族に渡るクライアントの多様で個性ある要望と向き合った。住戸同士の境界が直接せめぎ合う部分を極力減らし、前庭が取られているファサード面と斜線制限を避けたルーフトップ面に設計の自由度を獲得する方針に辿り着いた。また、要望や周囲の状況に合わせて局所的に囲いが付き、出窓が出て、塔屋が立ち上った。そのような「派生的な設計手法」によってこの建築は成り立っている。

住戸ごとにある固有な条件や状況を整った建築の中に閉じ込めるのではなく、そのまま複合的に建物の個性として表出させることは、本来的に多様である街の成り立ちに近いと考え、この計画にふさわしいと思われた。

「街をつくるように建築をつくる」ことがかつての文化村の土地柄を受け継いでいく。



建築をする 街をつくる / 多様性・複合性を引受ける 受け止める / 派生的手法による計画







Collaboration 意匠:内海聡建築設計事務所、構造:桑子建築設計事務所、設備:Comodo設備計画、施工:ウルテック、Photo : 大沢誠一

©河野有悟建築計画室